

多可町タイムズ

2008.11.1 家庭教育
平成20年 特集号

発行:多可町教育委員会
〒679-1134 多可町多可町中区茂利20
☎0795-32-1250
E-mail shakaikyoiku@takacho.jp



神戸松蔭女子学院大学 人間科学部

子ども発達学科 教授 勝木 洋子

(多可町地域家庭教育推進協議会アドバイザー)

私たちの長い人生を考えたとき、その礎となる環境がいくつもあります。私たちおとなが子どもを取り巻く環境としてできること、多可町という街の中で、そして家庭の中で、子どもを育むためにどのようなことができるでしょうか。それらを明らかにするため、「多可町における家庭教育推進のためのアンケート調査」が実施されました。その結果、保護者の方々は悩みながらも子育てを楽しんでいるものと捉えられていたことがわかりました。

多可町の子どもたちは、朝食をしっかりと食べ、早寝早起きなど規則正しい健康的な生活を送っています。家庭の雰囲気も温かく、家族の団らんがゆったりとられ、素直で優しい子どもを育てられています。保護者は仕事など忙しい毎日の中でも、進んで子どもとの時間をつくったり、コミュニケーションをとっておられました。

しかし、子育ての比重が母親にかかっている家庭が多いこともわかりました。子育て中の女性の70%以上が何らかの就労をしているにもかかわらず、育児、掃除、洗濯、炊事などを主にならしています。カナダのオンタリオ州のNPOが大学と共同で調査したデータによると、父親の家事・育児参加があると子どもの発達に大きな影響を及ぼすとの結果が得られました。社会的な発達だけでなく、知的なことすなわち学力にもあらわれるということです。働き盛りの父親がしんどい思いをせずに子どもと関われる「しくみづくり」が必要です。家族の理解や協力、地域住民や町行政からの支援も考えていく必要があります。

いま、どうして家庭教育？

家庭教育をめぐる動き

近年の都市化、核家族化、そして地域における地縁的なつながりの希薄化等によって、家庭教育力の低下が指摘されるなど、社会全体で家庭教育支援の必要性が叫ばれています。

また、新教育基本法（平成18年12月改正）においても、家庭教育を新たに取りあげています。子どもの健全な発達には、家庭で身につけたことが大きく影響することの重要性を訴える反面、もともと自主的に行われるべき家庭教育に対して、その役割の大切さをうたい、国や地方公共団体が家庭教育を支援していく必要性を強調しています。

家庭・家族と家庭教育

そもそも家庭とは、生活をともにする、夫婦・親子などの家族で構成された集まり、および家族の生活の場を指しますが、人間が形成する社会の最小単位でもあると言われています。

現代の家族は、同居親族数が減少し、

家族の周囲でも地域のコミュニティが縮小・衰退していく中で、大きく変わってきています。また、夫婦の共働きも一般的で、それによって育児や子育てが保育所や児童クラブ、地域のスポーツクラブや学習塾などに、一時的に委託されることも増えてきました。

現代社会においては、子どもの健全な育成のためには、家族だけでなく、地域住民や自治体などの適切な支援も重要になってきています。またこのことにより、家庭のなかでは、少しでもゆとりと安らぎをもって、子育てや教育を行うことが可能な環境が整うのではないかと考えます。



子どもが居心地のよい家庭

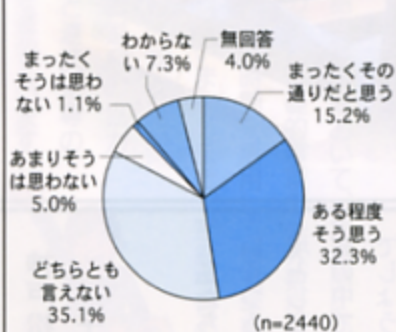
子どもが家庭に望んでいることは、どの年代の子どもに聞いても「家族みんな楽しく過ごす」ということです。そんな当たり前のことを一番の願いにしている子どもたち。「必要なものさえ与えて

いれば子どもは育つ」と言われた時代もありましたが、いまや楽しい家庭は家族がお互いを意識して協力し合わなければなかなか築けません。自分の家庭は、子どもにとって居心地のよい場所になっているかどうか、振り返ってみることも大切です。

多可町における家庭教育

5月に実施いたしました「多可町における家庭教育推進のためのアンケート調査（以下、家庭教育アンケート）」によると、多可町においても家庭教育力の低下については、全体の半数近くの47.5%もの保護者のみなさんが「まったくその通りだと思う」「ある程度そう思う」と答えられています。多可町内の子どもをもつ保護者のみなさんにとって、家庭教育力低下についての関心や問題意識が高いことが見て取れます。

Q. 家庭教育力の低下について
どのように思いますか。



そこで、保護者のみなさんの関心や問題意識が、具体的にどのようなことに向けられているか、また、多可町の地域性を考えたときにどのような家庭教育支援施策が望まれるのか、家庭教育アンケートに記述していただいたご意見の中から多かつたものの一部を紹介します。

保護者のみなさんの思い

家庭教育力低下について

【親の様子としつけに関するもの】

*子どものしつけが、昔に比べてゆるくなっているように思う。

*人としてのマナーやしつけが出来ていないと思います。

*家庭で子どもをしつけようとしても現実的に困難なことも多いのでは？

*しつけですね。家庭が一番小さい社会。

*学校や他人に責任を押しつけてしまう傾向にあるような気がします。

*価値観の多様化で、子どものしつけや善悪の判断にすいぶん差がある。

*社会のルールが守れない親、常識がない親、無責任な親が多い。

*参観日などで私語があったり、あいさつができない人が多数いる。

*親自身に大人になりきれていないアダルトチルドレンが多いと思う。

*昔のように、注意する人が減ってきている。（家族、近所の人など）

*親が子どもと友達感覚になってきて、きちんと叱れない。

【コミュニケーションに関するもの】

* 親の方に時間的、精神的余裕が少ないように思います。

* 共働きで子どもと過ごす時間が不足。

* 仕事に追われてゆつくりと余裕を持つて子どもと接することができない。

* 子どもと接する時間が少ないので、低下につながっていると思う。

* 子どもと1対1で向き合っていない。

* 生活の中でゆとりが少なく、また核家族であるため、じっくりと関わってやれる大人が少ない。

* テレビやゲームをする時間が増え、話す機会が減っているように思います。

* 習い事を複数することで、子どもが家庭で過ごす時間が減ってきている。

* 夫の仕事中心の生活に、妻である私があるきりめ相談することをしていない。

* 子どもの行動を理解できていない家庭があると思う。

【その他の意見】

* 生活は豊かでも、心が貧しくなった。

* 家庭学習ができていない。

* 宿題をもっと出して欲しい。

* 教科書が昔と比べて薄く、ずいぶん簡単になっている。

* 週休2日で勉強時間が少ない。

* 給食費を払わない親がいること。

* 乱暴な子や意地悪の子を見たとき、家庭はどうなっているのかと思います。

* 昔のように、「近所づきあい」することが少なくなった。

* 核家族が増えているから。

町行政に求める具体的な支援

* 医療費や保育料の助成をもっと充実させて欲しい。

* 児童手当がもう少し増えれば、仕事の時間が減り、子どもと向き合える。

* 学童保育を3年生までから6年生までに引き上げて欲しい。

* 安心して遊ばせられる場所、遊具の設置が不十分。

* 週一回でなく、毎日学校で遊んで帰れるようにして欲しい。

* 町事業の体験学習やイベントなどをもっと増やして欲しい。

* 親子で参加できる楽しい行事がもっとできないか。

* 何かボランティアのひとつとして、中学生にも参加の機会があれば。

* 行政によって、子どもの学習機会や社会参加の機会をつくって欲しい。

* 見守りパトロールは大変ありがたい。削減しないで欲しい。

* 参観日などを利用して、子どもの教育やしつけに関する講演を聴きたい。

* このアンケート結果などの公開、小遣いの金額やゲームの時間などの情報提供。

* 親自身が子育てに対して自信が持てるようなアドバイスをしていたきたい。

* 大学の偉い先生ではなく、身近な先輩の話が聞きたい。

* 家庭教育は親が行うもの。行政が介入することは、難しいのではないか。

* このアンケートがどう活かされるか、注目しています。

家庭教育アンケート集計結果より

家庭教育アンケートは、多可町の幼稚園（キッズランド）については5歳児、小・中学校に通われているお子さんをお持ちの全ての家庭を対象に、5月12日に実施いたしました。アンケートの返信率は95%を超え、保護者の皆様の家庭教育に対する関心の高さを改めて痛感いたしました。

多可町の家庭教育支援施策の充実と、各ご家庭のみなさんに対する情報提供をさせていただくために、本アンケートの集計結果をもとに、多可町における家庭教育の現状と課題を考察していききたいと思います。

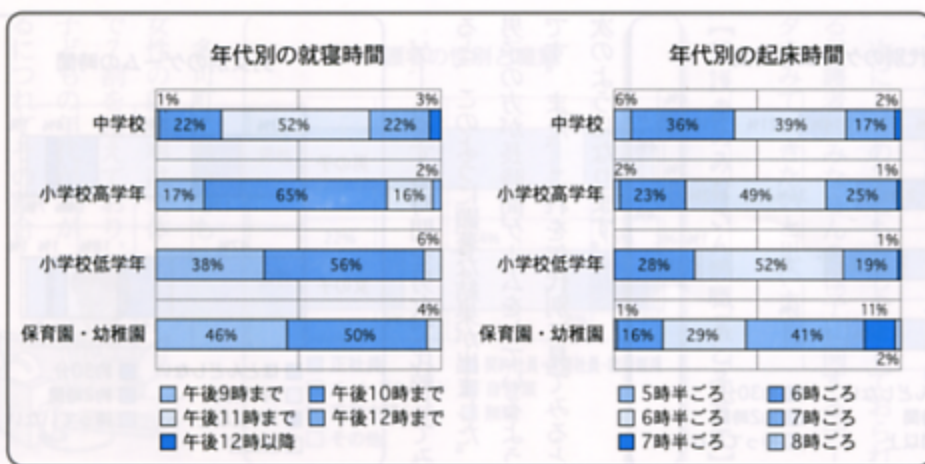
子どもの家庭生活編

早寝・早起き・朝ごはんについて

子どもの基本的な生活習慣を考えると、「早寝・早起き・朝ごはん」とよく言われています。早寝早起きは低体温を防ぎ、子どもたちは朝から元気にリズムのよい生活ができます。逆にそれができていないと体温が上がらず、やる気が出なかったり、食欲がわかなかったりというような一日を過ごすことになり、結果夜になかなか眠れないという悪循環に

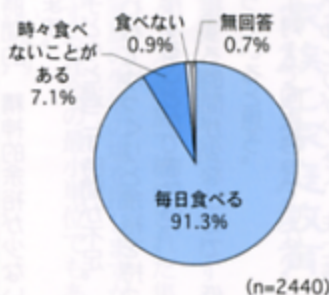
陥るようです。多可町の子どもたちについてはどうでしょうか。

【子どもたちの起床・就寝時間】



起床時間・就寝時間ともに年代によって違いがありますが、おおむねその年代に

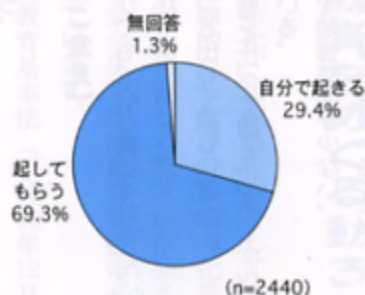
Q. あなたのお子さんは、
朝ごはんを食べますか。



【朝ごはんの様子】

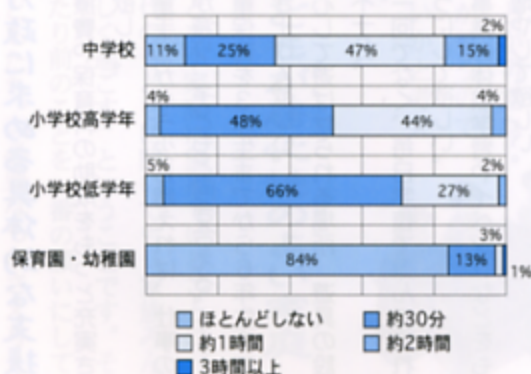
さて、朝ごはんについてはどうでしょうか。多可町の子どもたちが、どれくらい朝ごはんを食べているのかの状況は、次のグラフのようになっています。

Q. あなたのお子さんは、家族の手をかりずに自分で起きることができますか。



応じた規則正しい生活ができています。なお、次のグラフのように、起床の際には、年代に関係なく家族に起してもらった子どもが結構多くなっています。

年代別の家庭学習時間



【家庭学習の時間】

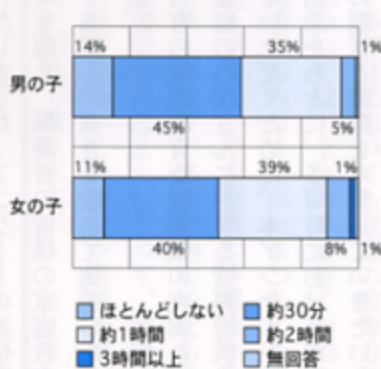
次に子どもたちの家庭での過ごし方について見ていきます。

家庭での時間の使い方について

どの年代も90%以上の子どもが毎日欠かさず食べています。これは全国的に見ても非常に高い数字となっています。このことから、多可町の家庭においては、規則正しく健康的な生活が送られていることがわかります。「早寝・早起き・朝ごはん」がとてもよく達成できています。



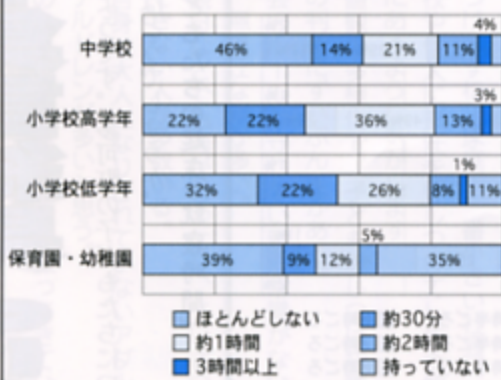
男女別の家庭学習時間



さらに、男女別の家庭学習の時間をみていくと、男子よりも女子の方が長い傾向があります。これは、どの年代においても同様です。この原因を考えると、「男子よりも女子の方が、カッチリと宿題などをする」というような考え方もあるかも知れませんが、ゲームをする時間が大きく影響しているようです。

家庭学習の時間については、小学校入学からが参考になってきますが、年代が上がるにしたがって、時間が増えていきます。しかし中学校になると、ほとんどしない子どもの割合が上がっています。小学校では宿題を中心とした学習であったのが、中学校では予習・復習など、自主的に計画を立てて行う学習が中心となってくることも原因のひとつと考えられます。小学校の間から、少しでも自主的な学習ができるようにしていくことも大切です。

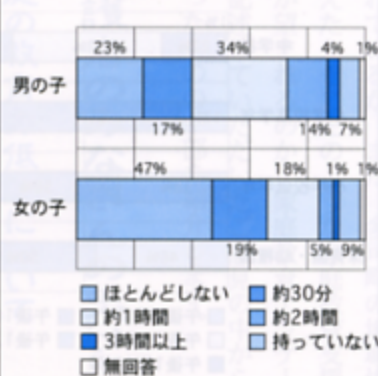
年代別のゲームの時間



保育園・幼稚園では、またゲームをもっていない子どもが多いようですが、小学

ゲームをする時間を男女で比較してみると、このように顕著な結果が出ました。男子の方が長時間ゲームをしているようです。また、これを年代別に見てみると次のようになります。

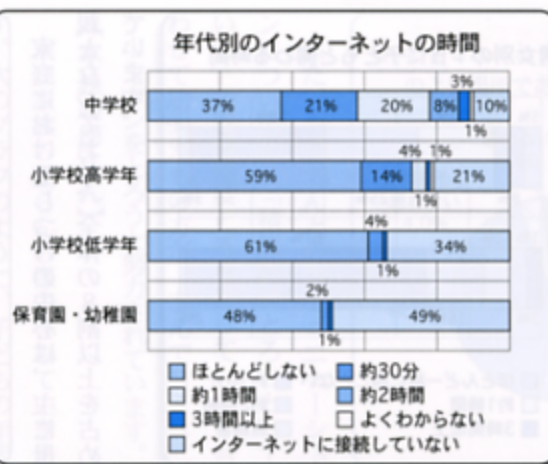
男女別のゲームの時間



【ゲームをする時間】

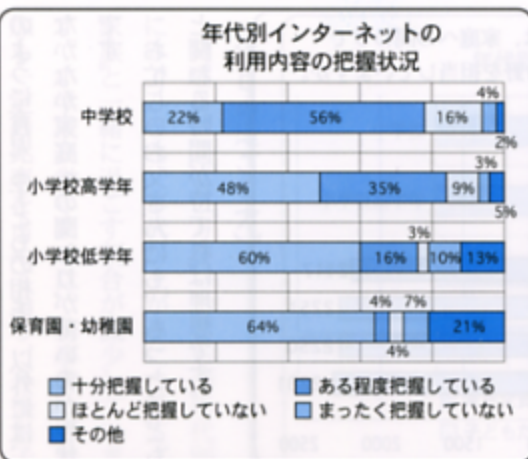
ゲームのような男女差はありませんが、小学校高学年あたりから急激にインターネットをする子どもが増えていて、その時間も長くなっています。現在のところ、多可町では全体的にインターネットをする家庭が少ないですが、今後ますます増加していくと考えられます。

なお、子どもがインターネットで利用している内容を、保護者のみなさんがど



校入学を機に、多くの子どもがゲームをするようになっていきます。ゲームの時間については、小学校高学年をピークに中学校では減少しています。部活動などに忙しくなることも関係しているようです。

同様に、インターネットをする時間を年代別にみると、次のようになります。



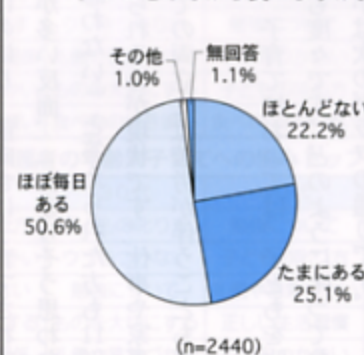
れくらしい把握されているかについてですが、子どもの年代が上がるにつれて、なかなか把握しきれない部分が出てきています。

インターネット利用の割合が、高くなる小学校高学年以上では、目立って把握できない部分が増えていきます。子どもが小さい頃は、インターネットを利用する場合でも保護者が一緒のことがほとんどであり、利用内容を十分把握できますが、大きくなると子どもだけの利用が多くなってくることも原因のひとつと考えられます。インターネットには有害情報も公開されており、利用内容を把握するための対策が必要です。また、有害情報にアクセスさせないために、フィルタリングソフトを導入することも有効な方法です。

最近、子どもたちの間でも所持率が急上昇している携帯電話についてですが、多可町において、全体での所持率は、6%弱となっています。年代別にみると保育園・幼稚園ではゼロ。小学校低学年3%、高学年5%、中学校11%です。

また、携帯電話を持たせておられるご家庭のうち、利用に関して何らかの約束事をつくられているご家庭は、約80%となっています。残りの20%は特に制限はなく、子どもが自由に携帯電話を利用していることになり、昨今の携帯電話利用

Q. あなたのお子さんは、食事の時にテレビをみながら食べますか。

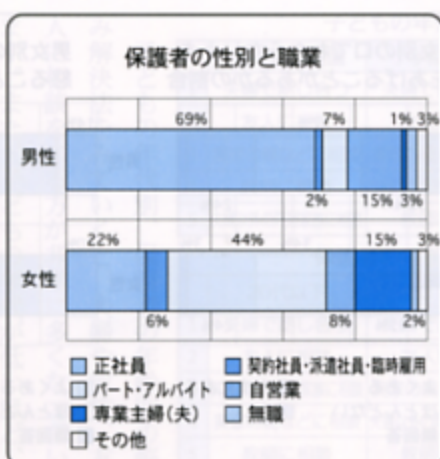


【テレビをみる時間】

子どもたちの家庭生活の中でも、時間を多く費やすテレビをみる時間については、子どもの年代が上がるにつれて、時間が増えています。

また、全国平均と比較すると割合は低めですが、次のように、テレビをみながら食事をする家庭が多いようです。

多可町においても女性の就業率は全体で7割を超えており、子どもの年代が上がるにつれてその割合も高くなっています。



【保護者のみなさんの職業と子育て】

次に、その子どもたちを育てておられる保護者のみなさんの様子に関するデータをみていきたいと思います。

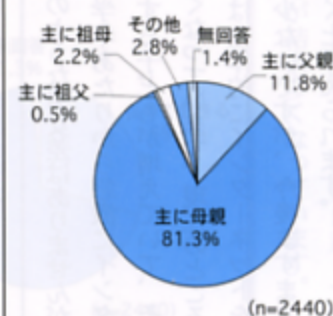
による少年少女に対する犯罪の急増等、様々な危険やトラブルの入り口となることが考えられます。今一度、点検していただくことが望まれます。

保護者のみなさんの様子編

子どもへの関わりやしつけについて

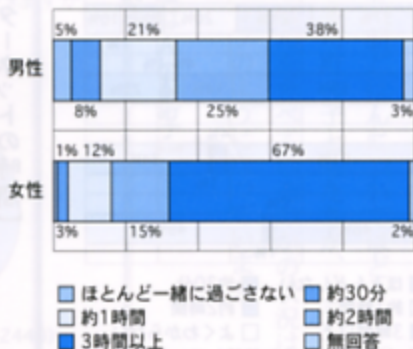
【家庭でのしつけの中心】

Q. あなたのご家庭では、お子さんのしつけに対し主に誰が中心ですか。



家庭におけるしつけの中心は、主に母親となっており、全体の8割以上を占めています。

男女別の1日に子どもと関わる時間

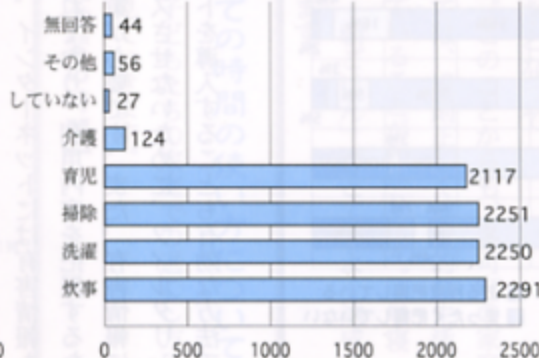


さらに、一日に子どもと関わる時間についてもお母さんの方が長くなっています。職業を持ち、お忙しい中でも子育てに、家事に奮闘されているお母さんの姿を想像することが出来ます。逆にお父さんについては、次のグラフ

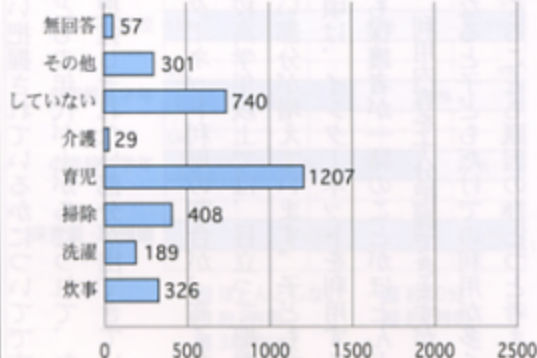


のように育児(子どもの相手) 以外には、なかなか家庭への関わりが薄いのが現状です。お忙しいお父さんにも、もっと子どもと関わる時間が持てれば理想です。

Q. あなたのご家庭では、家庭への関わりで母親は、主にどの分野を担当していますか。



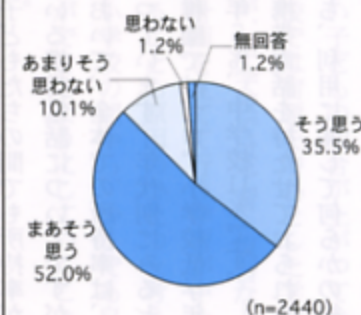
Q. あなたのご家庭では、家庭への関わりで父親は、主にどの分野を担当していますか。



そんな中、子育てが楽しいかの問いには、次のようなデータが出ました。

【子育てに対する意識】

Q. あなたにとって、子育ては楽しいと思いますか。



「そう思う」「まあそう思う」合わせて約87%にのぼり、前向きに子育てされている方が多い反面、「あまりそう思わない」「思わない」と答えられた方も11%程度おられるのが現状です。仕事や家事と子育ての両立には苦労が伴うことも事実です。

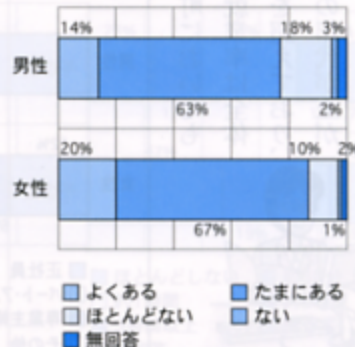
また、子育てにおいては、子どもを叱ることも度々です。どのように叱っておられるかは次のグラフの通りです。

男女別で大きな差はありませんが、お父さんよりもお母さんの方が感情にまかせて怒ったり、場合によっては手をあげて割合が高くなっています。お母さんの方がイライラされる事が多くになっているのかもしれませんが、なおこれらの割合は、子どもが小さい間に高く、子どもの年代が上がれば両者とも下がるという特徴も

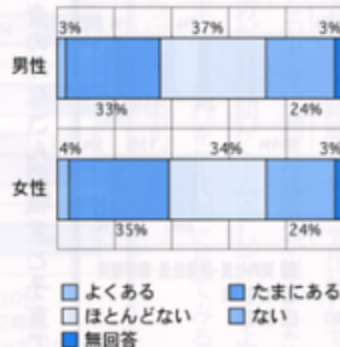
あります。

【子どもを叱る事】

男女別の感情にまかせて怒ることがあるかの割合



男女別の口でわからないとき手をあげることがあるかの割合



家庭の雰囲気について

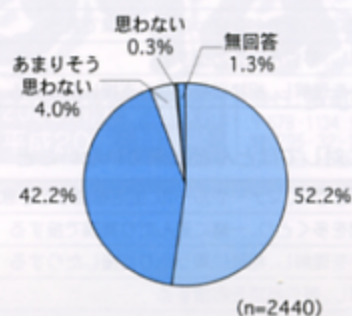
お子さんにとって、家庭は居心地のよい場所であると思いますかの問いに対しては、次のように「そう思う」「まあそう思う」合わせて95%近くにのぼり、非常に高い割合になっています。



1ページでも触れました、子どもが居心地のよい家庭がよく達成できています。

【子どもにとっての家庭の居心地】

Q. お子さんにとって、家庭は居心地のよい場所だと思いますか。



また、お子さんとのコミュニケーションについても、「積極的に」という割合は「ある程度」という割合として合わせて約94%の方が、進んでコミュニケーションをとろうと努力されています。

【家族の団らん】

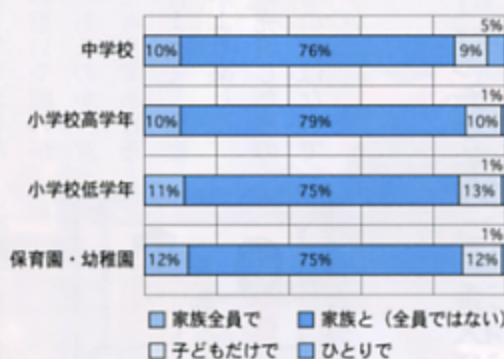
次に家族の団らんの様子をみていきます。次のグラフのように、子どもの年代に関係なく、夕食やテレビをみる時には家族でというご家庭が多くなっています。家族の団らんは、和やかに持たれていることがわかります。



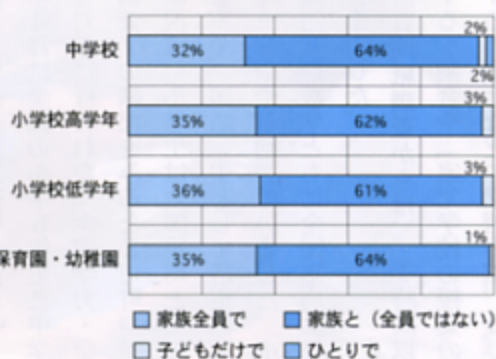
【休日の過ごし方】

日曜日に過ごす方を、子どもの年代別にみると、年代が上がるにつれて、家族と一緒に過ごす割合が減少しています。小学校高学年までは、町事業への参加も一定の比率を占めており、今後も子

年代別の誰とテレビをみるか



年代別の誰と夕食を食べるか



子どもの年代別子育てへの悩みトップ5

	保育園・幼稚園	小学校低学年	小学校高学年	中学校
1	子どもの叱り方	子どもの叱り方	子どもの叱り方	勉強について
2	わがママを直す	ウソをつかない	勉強について	子どもの叱り方
3	子どもの友達関係	礼儀や言葉づかい	ウソをつかない	礼儀や言葉づかい
4	礼儀や言葉づかい	ものを大切にする	子どものほめ方	正しい生活習慣
5	食べ物の好き嫌い	食べ物の好き嫌い	食べ物の好き嫌い	ウソをつかない

保護者の年齢別子育てへの悩みトップ5

	20代以下	30代	40代	50代以上
1	子どもの叱り方	子どもの叱り方	勉強について	勉強について
2	礼儀や言葉づかい	ウソをつかない	子どもの叱り方	礼儀や言葉づかい
3	ウソをつかない	勉強について	礼儀や言葉づかい	精神的な自立
4	ものを大切にする	ものを大切にする	正しい生活習慣	正しい生活習慣
5	きょうだい関係	礼儀や言葉づかい	ウソをつかない	食べ物の好き嫌い

子育てへの悩みについて

【子育てについての悩み】

どもを対象にした事業の充実を図って行かなければなりません。

子どもの年代別悩みの解決法トップ5

	保育園・幼稚園	小学校低学年	小学校高学年	中学校
1	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う
2	友人に相談	友人に相談	友人に相談	友人に相談
3	実家の親などに相談	実家の親などに相談	実家の親などに相談	実家の親などに相談
4	教師に相談	夫婦以外の同居家族に相談	夫婦以外の同居家族に相談	夫婦以外の同居家族に相談
5	夫婦以外の同居家族に相談	教師に相談	教師に相談	ひとりで考える

保護者の年齢別悩みの解決法トップ5

	20代以下	30代	40代	50代以上
1	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う	夫婦で話し合う
2	友人に相談	友人に相談	友人に相談	友人に相談
3	夫婦以外の同居家族に相談	実家の親などに相談	実家の親などに相談	ひとりで考える
4	実家の親などに相談	夫婦以外の同居家族に相談	夫婦以外の同居家族に相談	本や雑誌などを読む
5	教師に相談	教師に相談	ひとりで考える	教師に相談

【子育てについての悩みの解決法】

保護者のみなさんはどのような行動をとられているのでしょうか。具体的にみていきたいと思っています。

子育てに対する悩みについては、子どもの年代や、保護者の年齢によって異なっています。全体的に大きな割合を示したのは、子どもへの上手な叱り方です。また、子どもの礼儀や言葉づかいについても悩まれている方が多くなっています。さらに子どもの年代や、保護者の年齢が上がるほど、勉強についての悩みの割合が目立って上がっています。それでは、その悩みを解決するために

子どもの年代別、保護者の年齢別の悩み解決法をみていくと、夫婦や家族、友人に相談をする方が非常に多くなっています。また、子どもの年代が低いほど、学校の先生などに相談される方も多くなります。しかし子どもが中学生、年齢が40代以上の保護者の方には、ひとりで考える方も多くなります。他には、インターネットで情報収集したり、子育てサークルへの参加や、学童保育への相談、学習会への参加をされる方もおられます。

子どもたちの大人への思い

昨年11月に、多可町の子どもたちの手によって、「多可町子ども憲章」が制定されました。本年度も町内の各学校園では、子ども憲章を掲げ、子どもたちは楽しく充実した生活を送っています。この子ども憲章を作成するにあたって、子どもたちにとられたアンケートから、子どもたちの大人への思い(願い)が出てきました。今回の家庭教育アンケートでは、これに対して、保護者のみなさんはどこまで応えられているかについても設問を設けました。

【子どもたちの思い(願い)に対して】

子どもに対して十分に出来ていること

1	子どものことをしっかりと見て、間違っていればきちんと叱る
2	子どもと自然にあいさつを交わす
3	子どもに対して、感謝の気持ちをはっきりと言葉で言う
4	子どもの意思を尊重し、夢や希望を応援する
5	子どもの悩みや思いを理解し、相談に乗ったり支援したりする

子どもに対してほとんど出来ていないこと

1	子どもの手本となるように、マナーやルール、生活態度などを意識する
2	子どもと過ごす時間を多くとり、一緒に遊んだり笑顔で接する
3	子どもの悩みや思いを理解し、相談に乗ったり支援したりする
4	子どもの意思を尊重し、夢や希望を応援する
5	子どもに対して、感謝の気持ちをはっきりと言葉で言う

十分に応えられているということは、子どもが間違っていればきちんと叱ること、子どもとの自然なあいさつなどです。

逆にほとんど応えることが出来ていないことは、子どもの手本となること、子どもとの時間の確保、笑顔で接することなどが多くなりました。ご家庭でも、お子さんの思いや願いがどこにあるのか、意識的に考えてあげることで、家庭生活がより楽しく、さらに充実したものになるのではないのでしょうか。



多可町っ子の学力と生活状況

【全国学力・学習状況調査から】

本年4月に全国の小学6年生と中学3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の結果をみると多可町っ子の学習状況は、小学生は全国平均とほぼ同じ正答率で、国語「主として活用に関する問題」でやや下回っていました。中学生は国語及び数学ともに全国平均より高い正答率でした。

生活質問紙調査からは、「1時間以上勉強する」割合や「家で学校の授業の予習をする」割合などの学習習慣、及び、

「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」割合は、全国と比べて小・中学校ともに若干低い傾向がありました。また、「毎日朝食を食べる」、「きまり(規則)や約束を守る」、「あいさつをする」割合

などは、全国と比べて小・中学校とも若干高い傾向が見られました。さらに子どもたちの基本的な生活習慣を大切にさせることが、望ましい学習習慣につながり、引いては学力の向上につながるという結果も出ています。

今、重点的に進めていること

教育委員会では、

9年間の義務教育を大切にし、心身ともにたくましい、思いやりがあり、そして、確実に基礎・基本を身につけた多可町っ子を育みます。そのため「学校が楽しい」環境づくりを引き続き進めます。

学校では、

国語や算数において、重点的につまづきの多い基礎的事項の少人数授業や放課後等の時間を活用して補充学習を実施しています。また、家庭学習の習慣づけ・定着させるため家庭の協力のものと連携指導の強化を進めています。



今後の家庭教育施策について

今回のアンケート調査によりまして、多可町教育委員会では、ご家庭における親子のコミュニケーションを考え、お父さんの子育てや家庭への参画をさらに進めるための機会として、「家族の絆を深めるための親業講座」を次のように企画いたしました。

家族の絆を深めるための親業講座

1. 親子で作るおもしろパン

- (1) 日時 11月16日(日)9:00~12:00
(2) 会場 多可町中央公民館 調理室
(3) 対象 幼・小中学校の子どもと親(30名)
(4) 参加費 一人200円
(5) 講師 パン職人 宮崎安弘氏

2. お父さんの子育て座談会

- (1) 日時 11月18日(火)19:30~21:30(保・幼)
19日(水)19:30~21:30(小学校低)
25日(火)19:30~21:30(小学校高)
27日(木)19:30~21:30(中学校)
(2) 会場 多可町中央公民館 中会議室
(3) 対象 幼・小中学校の子どもを持つ父親(各20名)
(4) 参加費 無料
(5) 講師 環境教育事務所 T a o 会 大滝あや氏

※詳しくは、学校園を通じて配布しておりますチラシをご参照下さい。

【おわりに】

各学校園でも今回のアンケート結果を分析し、児童・生徒につけてやりたい力を学校・保護者・地域で連携して築いていけるように進めて参ります。ご協力よろしくお願いたします。